

FUJIEDA ROTARY CLUB

Weekly Bulletin

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL：054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040  
E-mail：club1972@fujieda-rotary.org

会長：青島 克郎 副会長：松葉 隆夫 幹事：仲田 廣志 副幹事：増田 國衛

第1788回

<ソング> 四つのテスト  
<ソングリーダー> 青島 彰君



2008-2009年度 RIテーマ  
夢をかたちに  
李 東建



菊の花

写真提供：事務局

会長報告 青島 克郎君

15、16日の2日間に亘り静岡センチュリーホテルで国際ロータリー第2620地区の地区大会が開催されました。

16日の日曜日には理事の皆さん始め15名の皆さんが大切な休日を返上してのご出席有り難うございました。

今回当クラブ前年度会員増強1名純増ということで会長賞を受賞いたしました純増1名で表彰されるとは寂しい限りです。

当日表彰者席に案内され両隣の会長さんは何の表彰なのかわからないとのことでした。会員増強達成クラブの賞状は別のもののようにし会長賞の表題もロータリーは分かち合いのとなってますので本当のところは良くわかりません。

私なりの勝手な解釈で前年度及び前々年度の村松会長が2年間続けて会長職を務められましたのでその功績に対して頂いたということにしました。皆さん如何でしょうか？

さて、定額給付金の支払について色々取りざたされております。私なりの定額給付金の取扱に対しての意見を何人かの方にお話ししましたら良い考じゃないかと言われました。そばで聞いていた家内は貴方がチョビチョビ口を挟む問題ではないとたしなめられ尤もだと思いましたがどうしても皆さんに問い掛けをしてみたくなりご批判を覚悟でお話したいと思えます。

今回の給付金は地域振興なのか、弱者救済なのか目的がハッキリわかりませんし、所詮原資は自分たちの納めた税金なのですから、テレビ中継のイ

ンタビューのように只給付されれば嬉しいという方の意見も理解できません。高額所得者の辞退についてもどうやら見送られそうな雰囲気になってきました。また支給方法も銀行振込になりそうです。

もし、自治体にすべてを任せるということになった場合はこんな考えはどうでしょうか。まず給付金は全市民に全額給付します。そして福祉目的や病院対策のための藤枝市の特別基金をつくります。給付金は各自が申請することになるでしょうからその時に基金への寄付をお願いし払込用紙を持ち帰っていただきます。給付が実施されたら各自の判断で基金への寄付金の納付をしていただく。地域振興から言えば効果が期待できないかも知れませんが少なくとも納めたお金が地元で有効に使われることにはなるのではないのでしょうか。戯言にお付き合いいただき有り難うございました。

幹事報告 仲田 廣志君

- 地区新世代委員会よりインターアクトベトナム研修旅行記が届いております

出席報告 青島 彰君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
21 / 36 58.53%	29 / 36 80.56%

- (1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)  
石垣君 北村君 杉山君 平君 酒向君  
松葉隆君 松葉義君 飯塚君 板倉君  
落合君 鈴木舜君 仲田晃君 水野君 望月志君  
山田君

## (2)メイクアップ者

北村 幸男君(焼津) 平和則君(焼津南)

### スマイルBOX

青島 彰君

- 昨日、結婚記念日のバラの花束が届きました。誠にありがとうございます。心より感謝しております。

春原 良則君

スマイル累計額 352,000円

### 委員会報告

『新型インフルエンザについて』

クラブ広報担当 柳原 寿男君

これまで存在しなかった、全く新しいインフルエンザウィルスで起こるインフルエンザである。鳥インフルエンザが人から人へと感染するタイプに変異した結果であり、H5N1型鳥インフルエンザウィルスの可能性が高い。このウィルスは毒性が強く、重症化し、死亡者も多数が予測される。

まず第一に感染力が強く、約一週間で世界中に広まる。又、誰も免疫を持たないので感染率は100%の可能性がある。そして現時点でワクチンが無いので感染が始まると急速に広がることになる。此のウィルスの特徴は高齢者より10~20代の若年層で重症化しやすいといわれる(サイトカイン・ストーム)

過去の歴史で新型インフルエンザの世界的流行は、スペインカゼ(H1N1、1918~20年) アジアカゼ(H2N2、1957~58年) 香港カゼ(H3N2、1968~70年)で、スペインカゼでは世界中で死亡者数4000万人~5000万人といわれている。

新型インフルエンザの被害は、多くの発症者と死亡者を出す人的被害にとどまらず、その影響は社会全体に及ぶと考えられる。短期間に労働力が失われ、電気、ガス、水道などのライフラインが十分に機能しなくなる可能性や、公共交通機関や物流などにも大きな影響が考えられよう。

## 地区大会報告

会長 青島克郎君

国際ロータリー第  
2620地区20  
08-2009年  
度地区大会が11  
月15日及び16  
日の2日間に亘り



ホテルセンチュリー静岡で開催されました。

第1日目は地区大会4大委員会と会長幹事会が開催され、会長幹事会には仲田廣志幹事と私が出席して参りました。

定刻になり会長幹事会が開催され牧田ガバナーの点鐘から始まりプログラムに沿って進行してゆきました。

今年度のRI会長代理は第2770地区埼玉県八潮ロータリークラブの1975年創立メンバーの田中作次さんです。田中さんは1994年に地区ガバナーを務められ、以降国際ロータリーの重要ポストを数多く歴任され来年6月21日~24日に英国のバーミンガムで開催される国際大会の大会委員長を務められます。

牧田Gや青島廣幸PGとは旧知の間柄とかで田中RI会長代理の派遣は大いに喜んでおられました。牧田ガバナーは挨拶の中でロータリーの根幹は職業を通じた地域へのサービスであり職業倫理の実践でありロータリー活動を行うことはやがて自分自身の為であるといっています。

入会5年未満の会員を対象としたロータリー研修会が牧田ガバナーの方針で計画され8月30日に山梨地区で開催され、静岡地区では来年の1月24日に静岡産経会館で開催されます。この研修会は地区新会員研修小委員会の富澤委員長が担当されていますが山梨での研修会では新会員と言うよりは会長幹事を含めた古参会員が6割を占めたようです。

内容としては牧田ガバナーの「ポールハリスの生涯とロータリー精神」と高野PGの「ロータリーについて考えていること」だったようです。

田中R I 会長代理の挨拶ではこうやるべきと決めたことは必ず実践することが肝心でありそのためにはライバルは自分自身であると言われ、また例会は情報収集の絶好の場所であり常にヒントをつかむように心がけているとのことでした。

両氏のご挨拶の後、道部登録委員長の発表で本大会の出席登録者が会員1,414名にご家族その他を加え総勢1,549名という報告があり続いて井上雅雄資格審査委員長による資格者数が136名である旨の発表、佐藤大会決議委員長による大会決議案の発表がありました。

続いて地区9委員会の報告になりました。会員増強委員長では地区全体として既に79名の純増を果たしているという報告があり驚くとともに当クラブでも何とか目標の達成をせねばならないと感じました。

IT推進委員長からは地区内81クラブの内74クラブがメールなどITを実施しているという報告とFM放送によるCMを90本実施したという報告がありました。

職業奉仕委員長からは牧田ガバナーが推奨している生活よろず相談の実施状況について実施又は計画中のクラブが37クラブあるという報告がありました。当クラブでは形は違いますが産業大学での冠講座を実施しているので同様の職業奉仕が実践できているものと考えています。

社会奉仕委員会からはモンゴルの砂漠緑化活動で330万本の植林計画の報告、国際奉仕委員会からは青少年交換学生の応募が減少しているとの現状報告、また新世代委員会からはローターアクト、インターアクトの活動報告がありました。

何れの委員会においてもそれぞれの地区委員長さん達が非常に熱心に取り組んでおられるとの印象を強く持ちました。

地区委員会報告のあとは牧田ガバナーより次年度ガバナーの甲府シティRC飯田祥雄氏が紹介され飯田氏のご挨拶がありました。

休憩の後米山奨学金40周年の記念としてタイ国の元米山奨学生のキャンサーン・スパンニーさ

んの里帰り報告がありました。彼女は1999-2000年の米山奨学生でティーチャーズプログラムにより1995年10月から静岡大学に留学をしていました。2000年には工学博士の博士号を取得し帰国後は大学で酵素、バクテリアに関するバイオロジーを教えているそうです。日本ではやはり日本語を覚えるのに苦労したそうですが留学前は日本人は利己的な国民だと思っていたが本当は人に気遣うとても親切な国民だというように考えが変わったそうです。

実は米山奨学生の第1号がタイ人で日本を訪れた2002-2003年のビチャイ・ラタクルR I 会長がそれを知りとても感激したそうです。

最後に青島廣幸PGのユーモアあふれる中でもロータリアンであるが為に得られるつながりの大切さに触れた講話で第1日目の会長幹事会が終了し会長幹事懇親会に移りました。

2日目の本会議は会場の関係から第5分区の皆さんは本会議場に入れず別室でモニターを見ながらの大会となりました。

私は会長賞受賞があるということで他クラブの受賞者と共に本会議場の席に着くことになりましたがやはり山梨、静岡のロータリアンが一堂に会する地区大会は全員が一緒になって開催されるべきだと強く感じました。

牧田ガバナーの点鐘に始まり諸氏の挨拶がありガバナーの挨拶は会長幹事会での挨拶と同様な内容でしたが特に職業倫理を守ることはロータリーの金看板であるということを強調されていました。

田中R I 会長代理も同様に会長幹事会での内容に加え李東建R I 会長のメッセージを伝えられました。

大会4委員会の報告と佐藤進大会決議委員長による10項目にわたる大会決議案が提出されガバナーの議長の下、満場一致で決議が採択されました。また大会記念事業として米山記念館への金一封の贈呈も行われました。ガバナーエレクト、ガバナーノミニーが紹介されエレクトの挨拶の後昼食となりました。

午後に入り表彰式の後、NHK番組の英語でしゃべらナイトを担当していたアナウンサー松本和也氏により「体験的コミュニケーション」という演題での大会記念講演が始まりました。

彼は学生時代から記憶力には大変自信があったそうでアナウンサーになってからもA4 3枚くらいの原稿は30分も有れば一字一句正確に記憶できたそうです。ところがアナウンサーとして自信がついてきたある時のインタビューで不覚にもメインゲストの名前を忘れしどろもどろになってしまいました。その後は開き直って破れかぶれのインタビューをしてしまったところ番組終了後に先輩から電話が入りてっきり怒られるのではないかと思ったら逆に気持ちが伝わってきて良かった、これからはそれで行けといわれたそうです。

それまでは正確に格好良く喋ろうという気持ちが優先し気持ちが伝わらず、つまりコミュニケーションが取れていなかったことに気づいたそうです。それ以来言葉で喋るのではなく気持ちで伝えることを心がけているそうです。

講演の後は今までの地区大会で別会場で開催されていた新世代国際フォーラムが本年度は本会議第2部として全体で行われこれが本来あるべき姿なのではないのかと感じました。新世代部門ではローターアクトとインターアクトの活動報告やメンバー紹介が行われ、国際奉仕部門ではGSEチーム、財団奨学生、米山奨学会、財団学友会、青少年交換学生の代表によるパネルディスカッションが平野地区国際委員長のコーディネートで行われましたが多少準備不足の感じが致しました。

休憩の後、次年度地区大会が甲府で開催される旨の発表がありホストクラブ甲府シティRCの太田会長のご挨拶がありました。

続いて田中RI会長代理の所感、ガバナー謝辞があり閉会の点鐘となりました。

大懇親会にクラブの皆さんと参加し、頃合いを見計らい会場を後にし帰宅いたしました。参加された皆様本当に御苦労さまでした。

## 国際ロータリー第2620地区 地区大会開催

開会挨拶  
鈴木実行委員長



RI会長代理  
田中作次氏

牧田ガバナー



石川県知事



各クラブガバナー



(担当 / 森下)